



3学年だより 8月

平成24年7月20日発行

1学期も終業式を迎え、いよいよ試練の夏休みです。7月24日から就職の学校長推薦面接、8月21日から進学为学校長推薦面接が行われます。どちらもこの面接がとても重要になります。求人も少しずつ来ていますので、受けてみようと思う会社をチェックし、絞り込んでください。また、進学希望者は指定校の推薦枠がかなりありますので、希望する学部・学科と自己の評定平均および欠席日数などしっかりと見比べて、選択してください。この夏休み中に本番に向けて担任と十分に練習を重ねてください。そして小論文をはじめAO入試対策や学科試験・一般常識・適性検査・作文対策にもしっかり計画を立てて取り組みましょう。この夏休みをどう過ごすかで将来が決まると言っても過言ではないでしょう。ぜひ有意義に過ごして下さい。

今月の予定

[7 月]	[8 月]
20日(金) 終業式 午後 ST.S 保護者会	1日(水) 進学校長推薦許可願提出締切
21日(土) 週休日	3日(金) 学校見学会(~8/5)
23日(月) ST.S 夏期前期課外(~8/1) 成績不振者課外(~7/27)	20日(月) ST.S 夏期後期課外(~8/30)
24日(火) 追認考査 就職学校長推薦面接(~7/26)	23日(木) 就学校長推薦選考結果発表 進学校長推薦面接(~8/29)
27日(金) ST 校内合宿(~7/28)	24日(金) 河合塾全統マーク模試 (ST.S および A.B 申込者)
28日(土) 週休日	[9 月]
30日(月) 企業見学(~8/19)	1日(土) 始業式 頭髪検査

復興支援講演会 美しい日本語「語りは心の絵画」平野啓子先生 6/29

「朗読と語り」

1組 伊藤 香織

今回の講演で、言葉は、話し手によって聞き手の受け取り方が大きく変わってしまうことを知った。

朗読や語りというものは知ってはいたが、その与える印象は、私の想像をはるかに上回るものだった。平野さんが語った『蜘蛛の糸』では、人間の愚かさや醜悪さが活字を通じた時よりもリアルに伝わってきたし、『山月記』の朗読でも、李徴の心情が痛切に伝わってきた。どちらの作品も、目を閉じながら聞くと、自分の中でその場面が色鮮やかに想像できた。

私たちは普段、朗読や語りというものをしない。強いて言えば、国語の教科書を音読する程度だろうか。しかし、それは、平野さんが仰るところの朗読、ましてや語りではない。少なくとも私は、一語一語ゆっくり意味を理解して解釈して、しかもそれを表現しようとして心がけて文章を読んだという経験はないに等しい。だが私は今回の講演で、自分が出会った文章をより深く楽しむために、何度も何度も繰り返し読むだけでなく、一度朗読してみる

という作業を行ってみるのも一つの手なのではないかという考えに至った。

朗読や語りという文化は、繊細な心を持つ日本人ならではのものなのかもしれない。今はまだその文化が認められはじめたばかりであるが、その文化が私たちの生活に浸透していくのは、時間の問題なのではないだろうか。

「語りの授業を通して」

1組 吉岡 千紘

語るとはどういうことでしょうか。また話すという単語との違いは何でしょう。今回の平野さんの講演には、そのようなことを考えさせられました。

和英辞書を引いてみると、「語る」は“tell”に相当します。この“tell”の意味は「人が人に事を話す」の他に「物・事を教える」というものがあります。つまり、「語る」という行為は、その話を通して人に何かを伝え、教えることを目的としているのではないのでしょうか。

今回の講演で平野先生は『蜘蛛の糸』という作品をただ読むのではなく、全て暗記し暗唱していただきました。私は、「語る」と「話す」ことの違いは正にここに集約されていると感じました（これは私の勝手な見解ですが）。「教える」という行為にはとても多くのプロセスを踏まなければいけません。まず、その事柄について自らが学び、更に自分の中で噛み砕いて自分なりの考えを持つ、そして他者にどのように説明するか考え、他者に伝えて、やっと「教える」ことが成立します。

つまり、「語る」というのは、一つのストーリーを通して誰かに自らの中で噛み砕いた考えを教える行為だと思いました。これは言葉を通し物事を伝達する「話す」という行為とは確かに一線を画しているでしょう。

今回、この講演で語られたことを通して私が学んだこと、つまり「教えられたこと」は「語る」というものの意味だったように感じました。



防災訓練 7/4 (水)



今年度第1回目の防災訓練が実施されました。今回は各教室からの避難で、避難経路を確かめてもらいましたが、災害はいつ起こるか分かりませんので校舎の配置をしっかりと把握しておきましょう。

「防災訓練反省」

今年度初めてやった防災訓練でした。今回は火災を想定した訓練でした。煙を吸わないようにするためのハンカチを忘れずに用意できたことはよかったと思います。持ってきている人は結構いましたが、そのため持ってきていない人の方が目立ってしまっていました。今回は防災訓練のあと体育館で野球応援の練習があったので、体育館シューズを持っていたのですが、天井から落ちてくるものから頭を守るようにと言われていたのに、シューズを頭に載せて避難することをしなかったのが、次回にはできるようにしたいと思いました。防災訓練開始から避難完了まで前回より時間がかかってしまったようなので、次回はもっと素早く避難したいと思いました。教室がかわって初めての防災訓練で前回と違う避難ルートでしたが、意外とスムーズにみんな避難できたと思います。教室の窓もきちんと閉まっていた、次回もよくできたところは継続できたらいいなと思いました。

東日本大震災から1年以上経ちましたが、まだ余震がおさまりません。またいつ大きな地震がくるか分かりません。「避難する」と言っても、本当に地震が起こると冷静な判断ができなくなると思います。常にさまざまなことを意識して訓練することが大切だと思いました。

壮行会&応援練習 7/4 (水)・5 (木)

4日にインターハイに出場する4部と5日に野球部の健闘を祈って壮行会が行われ、それぞれ決意を語ってくれました。



看護・医療系進学講演会 7/7 (土)

東京医療保健大学の鈴木和文先生をお招きし、看護・医療系に進学を希望している生徒を対象に講演をしていただきました。その方面の仕事に携わる者の心構えとして、かなり厳しいことも仰っていましたが、命を預かる者として、一番必要なことかもしれません。

「講演会を終えて」

6組 A. Iさん

私は今回の医療・看護の講演を聞いて、改めて自分の将来について考えさせられました。医療や看護は、決して一人ではできなくて、一人二人と人が集まってやっと人を助けられるそうです。私は、みんなで人を助けたい、そのような仕事に関わりたくて強く思いました。

しかし、このような仕事は、憧れだけではできないことが分かりました。看護は、福祉と同様に介護もしなくてはなりません。それはとても大変なことで、生半可な気持ちではできないことです。それを改めて指摘され、少し自信がなくなりました。

私は高3になるまで看護という仕事を意識したことがありませんでした。高3になって、「自分は将来何がやりたいのか」、「何になりたいのか」を考えた時、看護に出会いました。今、看護師をやめていく人が多く、看護師が不足していると聞いて決意ができました。私は絶対看護師になって、一人でも多くの人に関わって、一人でも多くの人を助けたいと思いました。

講演会を終えて、不安になって自信をなくしかけましたが、逆にこの不安を乗り越えてこそその気持ちが大切であり、くじけてなどられません。今を大切に生きて、これからの自分の理想像を描きながら看護師になれるよう頑張っていきたいです。

高校野球県大会 7/8 (日) 日立市民球場 対 緑岡高校

先制点は許したものの1回の裏には逆転し、よいスタートを切ったかに見えましたが、3回には追いつかれ、4回に勝ち越され、終盤には大量点を取られてしまいました。スタンドでは大きな声援を送っていたのですが、残念でした。他の部活の活躍がプレッシャーになっていたのでしょうか。選手たちの動きも堅かったように感じられました。一番信じられなかったのは、選手たちかもしれません。お疲れさまでした。

◀! 始球式▶

